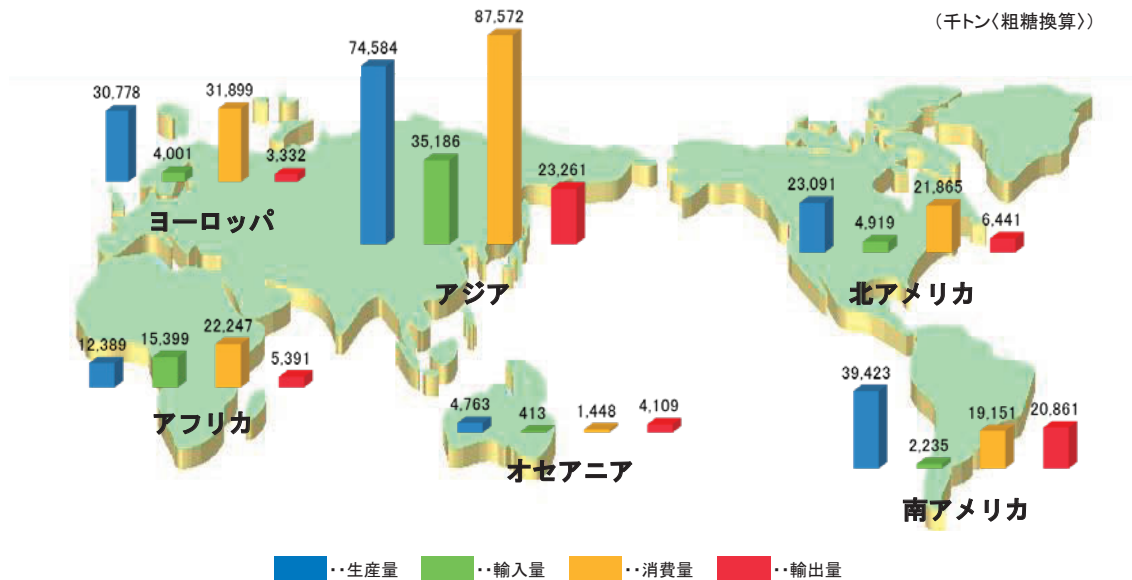


## 砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹、塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給 (2018年12月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2018/19年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2018」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,102	160,315	56,023	164,765	56,244	50,430	30.6
2013/14	63,414	184,058	58,323	175,214	61,044	69,537	39.7
2014/15	69,537	183,717	59,707	176,522	62,081	74,357	42.1
2015/16	74,357	175,955	67,776	179,679	69,077	69,333	38.6
2016/17	69,333	180,545	70,699	181,896	70,739	67,943	37.4
2017/18	67,943	194,476	65,748	182,295	67,364	78,507	43.1
2018/19 (2018年9月予測)	76,057	188,440	63,753	185,014	64,896	78,339	42.3
2018/19 (2018年12月予測)	78,507	185,027	62,152	184,888	63,394	77,404	41.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2018」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_001876.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001876.html)

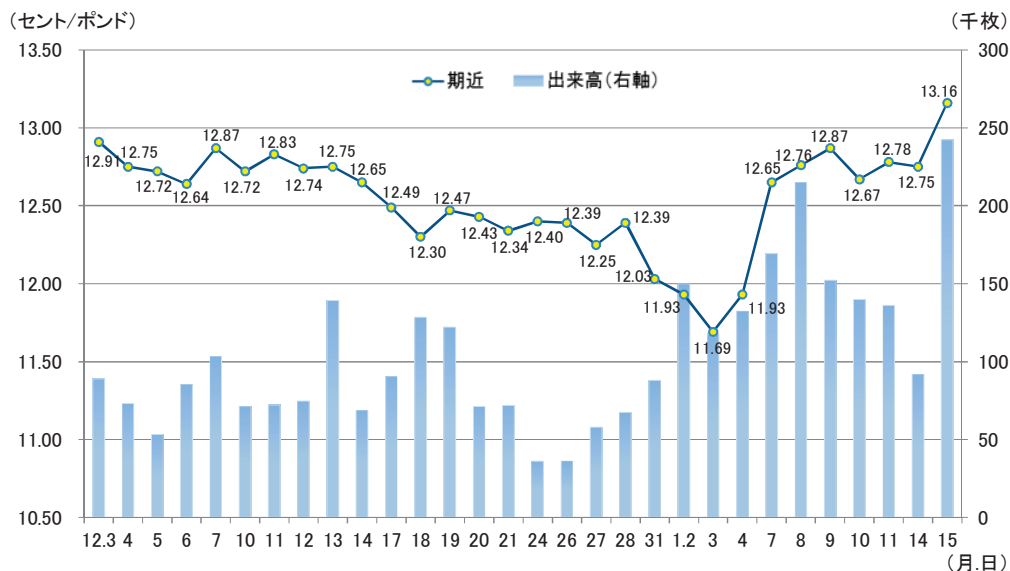
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_001877.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001877.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/3～1/15）

～年末にかけて下落が続いたが、年明けは一転、1ポンドあたり13セント台まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（3月限）<sup>がつぎり</sup>2018年12月の推移を見ると、12月7日は、原油高に支えられ、1ポンドあたり12.87セント（注1）の値を付け、数日もみ合いが続いた。しかし、14日以降は、リアル（注2）安によってブラジルからの輸出が促進され、砂糖の供給量が増加したことや、原油価格の下落によってバイオエタノールの優位性が低下し、ブラジルがサトウキビを砂糖生産に仕向けるとの見方が強くなったことが相場を圧迫し、18日には同12.30セントまで値を下げた。19日は、反発し同12.47セントまで値を戻したものの、その後もみ合いが続いた。31日は、砂糖の輸出増につながるリアル安が相場を圧迫するとともに、世界的な砂糖の供給過剰感への懸念が拭えず、年末の納会としては2008年ぶりの低水準となる同12.03セントの値をつけた。

年が明けた1月2日は、砂糖の主要生産国である

インドやタイのサトウキビ生産予測量が上方修正されていることが相場の押し下げ要因となり、同11.93セントとなった。さらに、原油価格の下落の影響も加わり、3日は3カ月ぶりの安値水準となる同11.69セントまで値を下げた。4日は、金融市場全体の相場が上昇したことを受け、同11.93セントまで値を上げた。週明けの7日は、砂糖の主要生産国であるブラジルやインドの天候懸念、石油輸出国機構（OPEC）主導の協調減産が相場をさらに押し上げ、同12.65セントと約3週間ぶりの高値となった。その後数日間はおもひ合いが続いたが、15日は、原油価格の上昇を受けて急伸し、同13.16セントまで値を上げた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）ブラジルの通貨。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年1月時点予測）

本稿中の為替レートは2018年12月末日TTS相場の値であり、1米ドル=112円（112.00円）、1インド・ルピー=1.74円である。

#### ブラジル

##### 2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：872万ha（前年度比1.2%増）

生産量：6億1250万トン（同4.5%減）

###### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3105万トン（同25.2%減）

輸出量：1984万トン（同36.0%減）

#### 2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年1月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、872万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、生産量は、北東部地域の全域と中南部地域の一部で高温少雨が続き、生育の遅れが見られることから、6億1250万トン（同4.5%減）とやや減少が見込まれている（表2）。砂糖生産量は、サトウキビの減産に加え、砂糖価格よりエタノール価格が高く推移し、サトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが加速すると予測されるため、3105万トン（同25.2%減）と大幅な減少が見込まれている。輸出量は、主要輸出相手国である中国が追加関税措置を実施していることなども影響して、1984万トン（同36.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

#### ブラジル政府、インドをWTOに提訴する方針を固める

ブラジル政府は12月12日、インド政府の砂糖政

策が世界貿易機関（WTO）のルールに反しているとし、WTOに提訴する方針を固めた。ブラジル政府は、今回の決定の経緯について「これまでわれわれは、インド政府に対して砂糖政策がWTOのルールと矛盾しないことの合理的な理由を示すよう求めてきたが、明確な回答が得られなかったため」と説明した。また、インド政府によるサトウキビの最低買い取り価格の引き上げや製糖業者への輸出補助金が砂糖の国際価格の低迷を招いたと指摘し、「ブラジルのみならず、中国やタイの砂糖産業にも大きな打撃を与えている」との見解を示した。

今回の政府の決定を受け、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）<sup>(注)</sup>は「他の主要砂糖生産国の政府も、ブラジル政府と同様に声を上げ行動すべきだ」と声明を発表した。UNICAの試算によると、ニューヨーク粗糖先物相場が過去10年で最低に近い水準で推移した影響で、多くの製糖業者は砂糖生産部門の採算が確保できていないとし、その経済的損失は13億米ドル（1456億円）に達するとした。

なお、ブラジル政府は、2018年10月にも中国政府による砂糖の追加関税措置がWTOのルールに反しているとして、WTO提訴に向けた手続きとなる2国間協議を要請しており、砂糖の貿易をめぐる紛争処理手続きを2件抱えることとなる。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

## CONAB、2018/19年度のバイオエタノール生産量を発表

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は12月20日、2018/19年度（4月～翌3月）におけるサトウキビの生産見込みを発表した。この発表によると、砂糖の国際価格の低迷が長期化していることを受け、製糖業者はサトウキビの6割超をバイオエタ

ノール生産へ仕向けていることから、今年度のバイオエタノール生産量は前回予測（8月）と比べ2.8%上方修正され、323億リットルに達し、過去最高を記録すると予測した。その生産の内訳は、含水エタノールが216億リットル（前年度比32.8%増）、ガソリンに混合される無水エタノールが107億リットル（同2.3%減）となっている。

一方、砂糖生産量は、サトウキビの圧搾量が前年度と比べ2.8%減少したこともあり、3170万トン（同16.2%減）と大幅に減少すると予測した。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

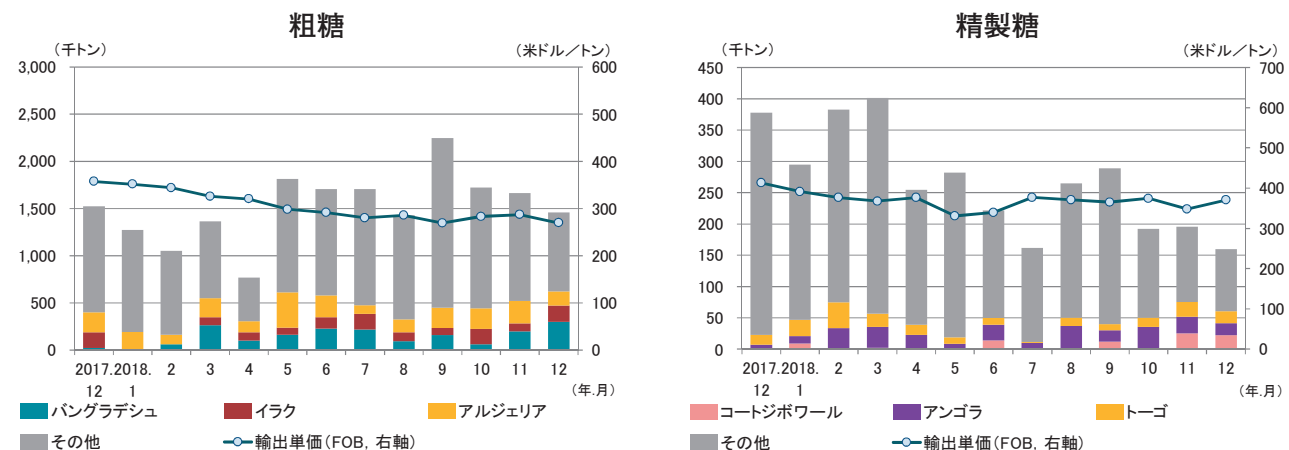
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,188	8,488	8,617	8,685	8,719	1.2	
サトウキビ生産量	666,824	651,841	641,066	602,000	612,500	▲ 4.5	
砂糖	生産量	36,472	41,670	41,490	30,640	31,050	▲ 25.2
	輸入量	1	4	2	3	3	25.0
	消費量	12,057	11,502	11,100	11,211	11,211	1.0
	輸出量	26,023	30,117	30,991	19,425	19,839	▲ 36.0
	期末在庫量	739	794	196	203	199	1.8
	期末在庫率	1.9	1.9	0.5	0.7	0.6	0.18 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## インド

### 2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：512万ha（前年度比6.1%増）  
生産量：3億8122万トン（同3.1%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3235万トン（同6.8%減）  
輸出量：416万トン（同76.2%増）

### 2018/19年度、砂糖生産量は減少する一方、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は512万ヘクタール（前年度比6.1%増）とかなりの増加が見込まれるものの、マハラシュトラ州やカルナータカ州において干ばつや害虫の大量発生がサトウキビの生育を阻害したことから、サトウキビ生産量は3億8122万トン（同3.1%減）とやや減少することが見込まれている（表3）。砂糖生産量についても、マハラシュトラ州とカルナータカ州の製糖工場が昨年よりもかなり早期に操業を終了すると予想されるため、3235万トン（同6.8%減）とかなりの減少が見込まれている。輸出量は、政府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課している影響で、416万トン（同76.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

### インド政府、砂糖の最低支持価格の引き上げを検討

インド政府は1月7日、政府による砂糖の買い上げ価格（最低支持価格）を現行から10%程度引き上げ、最大100キログラム当たり32ルピー（56円）とする方針を示した。これに対し、製糖業者からは「サトウキビの増産基調が続いた影響で砂糖の需給ギャップが拡大し、国内価格が低迷する現況からすると、今回の政府の引き上げ案では不十分である」といった不満の声が上がっている。このことから、製糖業者の団体などは、今後政府に対し同35ルピー

（61円）まで引き上げるよう求めていくとしている。

現地報道によると、多くの製糖業者は砂糖の国内価格の低迷により十分な収入が確保できない状況にあることなどから、生産者へのサトウキビ代（原料代）の支払いが滞っており、砂糖生産量上位のウツタル・プラデーシュ州とマハラシュトラ州の2州だけで、製糖業者が抱える未精算額は650億ルピー（1131億円）と推定されている。

### マハラシュトラ州政府、精算代金の一部を現物支給することを承認

マハラシュトラ州政府は1月、州内の製糖業者が抱える生産者への未精算額が膨らみ続けていることを受け、支払うべき原料代の一部を現物の砂糖で支払うことを承認した。現地報道によると、同州で操業している181の製糖工場のうち、法令で定められたサトウキビの最低買い取り価格（FRP）で生産者に精算できた製糖工場は数えるほどしかなく、州平均ではFRPの4割程度の代金しか精算されていないという。

原料代金の何割まで現物の支給が認められるかは今のところ不明であるが、製糖業者は「未精算額と過剰在庫を縮小させる好機となる」と歓迎する一方、市場関係者の間では、砂糖の国内取引に新たに生産者が参入する可能性があるため、砂糖の国内価格のさらなる低下を懸念する声が出ている。

表3 インドの砂糖需給の推移

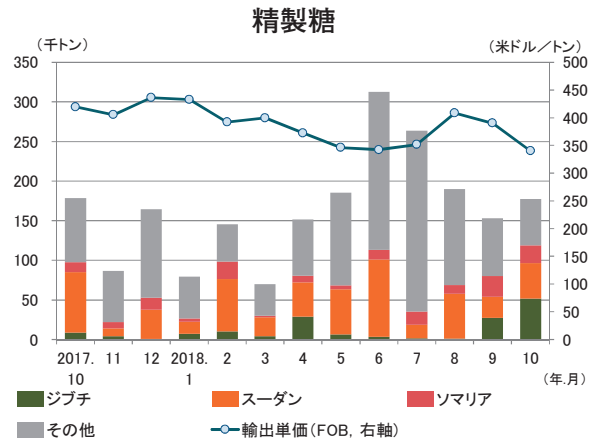
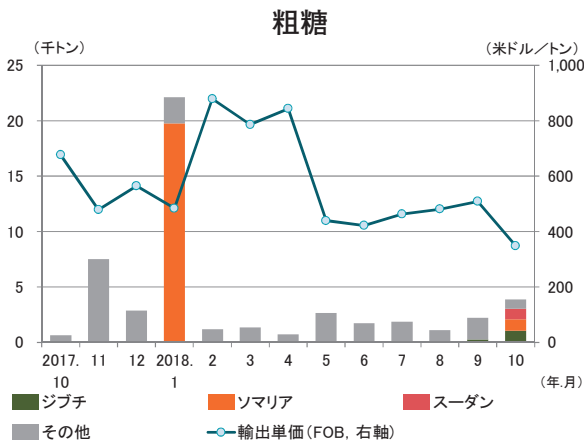
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,806	4,327	4,827	5,120	5,120	6.1	
サトウキビ生産量	356,871	306,070	393,320	381,215	381,215	▲ 3.1	
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	32,348	▲ 6.8	
	輸入量	2,146	2,536	2,291	1,126	▲ 51.1	
	消費量	26,784	26,568	26,930	28,083	1.9	
	輸出量	3,955	2,233	2,361	4,160	76.2	
	期末在庫量	8,370	3,952	11,672	12,313	13,547	16.1
	期末在庫率	27.2	13.7	39.8	38.2	42.9	3.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 中国

### 2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：122万ha(前年度比1.0%減)  
生産量：7859万トン(同2.4%増)

#### 【てん菜】

収穫面積：24万ha(同30.5%増)  
生産量：1167万トン(同21.7%増)

#### 【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1146万トン(同2.8%増)  
輸入量：585万トン(同2.4%減)

### 2018/19年度、砂糖生産量はわずかに増加、輸入量はわずかに減少する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール(前年度比1.0%減)とわずかな減少が見込まれ、生産量は7859万トン(同2.4%増)とわずかな増加が見込まれている(表4)。

てん菜の収穫面積は24万ヘクタール(同30.5%増)、生産量は1167万トン(同21.7%増)と、ともに大幅な増加が見込まれている(ドイツの調査会社であるF.O.リヒト社によると、内モンゴル自治区などの生産者は、トウモロコシ支援政策内容の変更によってトウモロコシ価格が低下したことを受

け、てん菜への転作を進めている)。7月～10月にかけて天候に恵まれ、原料作物の増産が期待できることから、砂糖生産量も、1146万トン（同2.8%増）と増加が見込まれている。また、輸入量は、585万トン（同2.4%減）とわずかな減少が見込まれている。

### 2018年11月の砂糖輸入量、前年同月と比べ大幅に増加

中国税関総署が11月25日に発表した2018年11月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は34万トン（前年同月比2.2倍、前月同）と前年同月と比べ大幅に増加した。また、2018年1月からの輸入量は264万トン（前年同期比21.8%増）と大幅に増加した。背景には、中国政府が10月ごろから国境を接するミャンマーを経由した砂糖の密輸入の取り締まりを強化したことや、ミャンマー政府が中国向けの砂糖の輸出許可を制限したことで、結果としてミャンマー経由を除く正式なルートでの輸入量が増加

しているものとみられる。しかしながら、2018年前半は砂糖の国際価格が大きく下落した影響で内外価格差が広がり、密輸入量が急増したとされ、その数量は100万トン～120万トンに上ると推計されている。

### 中国政府、豪州との間で新たな貿易交渉を開始

中国政府は11月8日、豪州との自由貿易協定（FTA、2015年12月20日発効）とは別の枠組みで、関税の引き下げなどを目指す新たな貿易交渉を2019年1月から開始すると発表した。先のFTAでは、豪州側は中国から輸入するすべての商品の関税を2019年1月1日から撤廃する一方、中国側は最長15年で96.8%の商品の関税を撤廃することで合意している。ただし、この中に砂糖は含まれていない。このため、新たな貿易交渉では、中国側が砂糖の関税撤廃または引き下げに応じるかが焦点になるものとみられる。

表4 中国の砂糖需給の推移

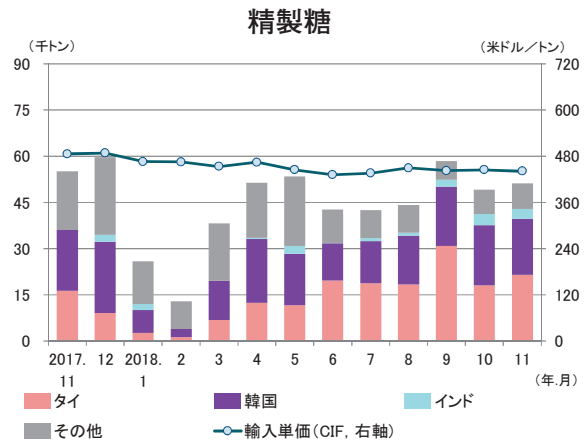
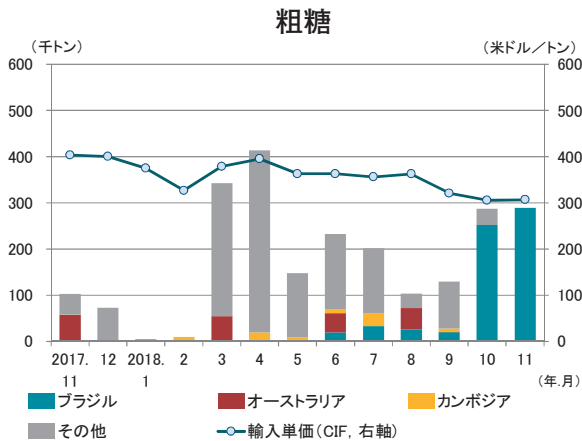
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,263	1,219	▲ 1.0	
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,892	78,590	2.4	
てん菜収穫面積	136	168	186	224	243	30.5	
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,182	11,670	21.7	
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,569	11,461	2.8
	輸入量	7,910	5,715	5,995	5,726	5,852	▲ 2.4
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,142	17,142	1.2
	輸出量	181	146	183	154	170	▲ 7.1
	期末在庫量	11,926	10,689	10,716	10,813	10,717	0.0
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	62.5	61.9	0.7 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

**E U**

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：172万ha（前年度比1.0%減）  
生産量：1億1724万トン（同15.1%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1876万トン（同13.2%減）  
輸出量：163万トン（同57.2%減）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少し、  
輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）てん菜の収穫面積は172万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれているが、生産量は1億1724万トン（同15.1%減）とかなりの減少が見込まれている（表5）。てん菜生産量の減少に加え、てん菜に含まれる不純物が多いことも影響し、砂糖生産量は1876万トン（同13.2%減）とかなり減少する見込みである。域内における異性化糖の供給不足を砂糖で相殺する動きが予測されるほか、砂糖の期首在庫量が減少していることを受け、輸出量は163万トン（同57.2%減）と、大幅な減少が見込まれている。

ドイツ連邦食料・農業省、加工食品中の糖類の削減を目指す

ドイツ連邦食料・農業省は12月12日、国内の食

品・飲料の業界団体との間で、2025年までに加工食品に含まれる糖類、塩分および脂質の量を削減することで合意したと発表した。これにより、清涼飲料水にあっては、商品中に含まれる糖類の量を現行から最大20%削減することとなった。

合意の背景には、ドイツの成人男性の約6割、成人女性の約4割が過体重または肥満とされ、健康への影響や社会保障費用負担の観点から、政府に早急な対策を求める声が高まっていることがある。ただし、今回の合意で定めた目標は法的拘束力がない自主的な取り組みとして位置付けられたことから、医療・福祉関係者からは「不十分」との批判が出ている。周辺国の英国やフランスでは、すでに栄養成分の含有量を強調する食品表示の導入、糖類が含まれる食品への課税、子ども向け商品の広告規制の強化など法的拘束力のある措置を実施していることから、今後のドイツ政府の対応が注目される。



表5 EUの砂糖需給の推移

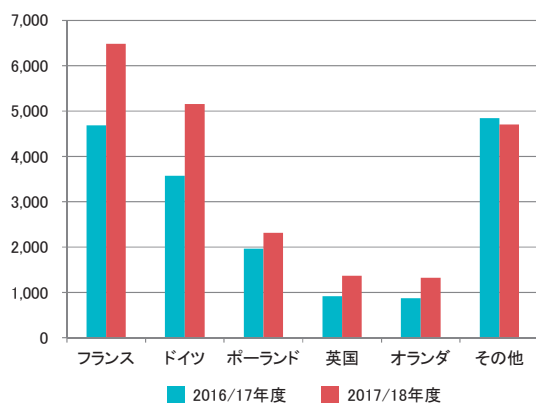
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,364	1,466	1,732	1,714	1,715	▲ 1.0	
てん菜生産量	94,855	107,986	138,127	116,751	117,237	▲ 15.1	
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,621	18,465	▲ 13.2	
	輸入量	3,651	3,115	1,731	1,848	6.7	
	消費量	19,481	19,139	19,266	18,811	▲ 1.7	
	輸出量	1,501	1,510	3,809	1,631	▲ 57.2	
	期末在庫量	1,913	1,449	1,727	2,127	1,768	2.4
	期末在庫率	9.1	7.0	7.5	10.4	8.6	1.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

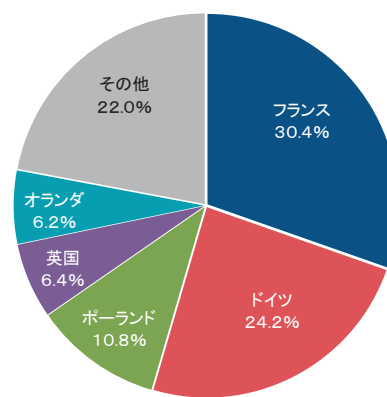
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2018年12月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：2017/18年度。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年1月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。本稿中の為替レートは1タイ・バーツ=3.49円、1南アフリカ・ランド=9.16円である。

### 豪州

#### 2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3247万トン（同2.6%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：446万トン（同0.2%減）

輸出量：341万トン（同4.6%減）

## 2018/19年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、 輸出量はやや減少の見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれるが、夏季にクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州で発生した干ばつの影響を受けて、生産量は、3247万トン（同2.6%減）とわずかな減少が見込まれている（表6）。しかし、乾燥気候によってサトウキビの糖度が上昇したことにより、砂糖生産量は、446万トン（同0.2%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は341万トン（同4.6%減）とやや減少すると見込まれている。

## 2018/19年度の製糖操業、12月9日に終了

豪州砂糖製造業者協議会（Australian Sugar

Milling Council）<sup>（注）</sup>が12月15日に発表した統計によると、12月9日をもって24の製糖工場における今年度の製糖操業がほぼ終了した。2018/19年度は、平年より気温が高く、降水量が極端に少なかったため、土壌が極めて乾燥した状態が続いた。これにより、全体としてサトウキビの茎丈が抑制される傾向が見られたため、圧搾されたサトウキビの量（速報値）は3243万8000トン（前年度比2.6%減）と当初予測より182万6000トン少ない結果となった。しかしながら、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率）が14.3%（同0.7ポイント高）と過去10年で最も高い値を記録したことから、砂糖生産量は前年度を上回る見通しである。

（注）豪州の製糖業者が加盟する団体。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	382	368	376	385	385	2.5
サトウキビ生産量	34,941	36,506	33,344	32,777	32,468	▲2.6
砂糖	生産量	4,889	4,797	4,463	4,489	▲0.2
	輸入量	164	68	29	29	0.0
	消費量	1,196	1,159	1,112	1,080	▲4.0
	輸出量	4,384	4,004	3,577	3,439	▲4.6
	期末在庫量	1,267	969	771	757	0.6
	期末在庫率	22.7	18.8	16.4	16.8	17.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.9%増）  
生産量：1億2500万トン（同7.4%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1439万トン（同7.7%減）  
輸出量：1305万トン（同29.5%増）

## 2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少する 一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキ

ビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.9%増）とわずかに増加すると見込まれている。台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サ

トウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受けて、生産量は1億2500万トン（同7.4%減）、砂糖生産量は、1439万トン（同7.7%減）とかなりの減少が見込まれている（表7）。一方、輸出量については前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1305万トン（同29.5%増）と大幅な増加が見込まれている。

### 製糖業者へ150億<sup>ほてん</sup>バーツ規模の赤字補填を実施

現地報道によると、砂糖の国際価格の低迷による影響で多くの製糖業者が莫大な損失を被り、資金繰りに窮する可能性がある。生産者へのサトウキビ代（原料代）の最低買い取り価格は、サトウキビ砂糖委員会（TCSB）が毎年11月ごろに決定しており、

2018/19年度はサトウキビ1トン当たり700バーツ（2443円。前年度比20.5%減）と大幅に減額されたものの、長引く砂糖の国際価格の低迷で砂糖の販売収入が大きく減少し、製糖業者の多くは原料代の支払い原資が手元に残っていないとされる。このままでは生産者への原料代の支払いが滞る可能性があるため、砂糖産業の健全な発展のため生産者と製糖業者が造成した「サトウキビ・砂糖基金」の管理団体は、同基金から100億バーツ（349億円）程度を取り崩し、製糖業者の赤字補填に充てる方向で調整に入った。このほか、政府からの財政投融資を活用して捻出した51億バーツ（177億9900万円）もこの補填に充てる予定である。しかし、製糖業全体の赤字総額は190億バーツ（663億1000万円）を超えると見込まれており、対策に必要な資金の約2割は調達の方法が立っていないとされる。

表7 タイの砂糖需給の推移

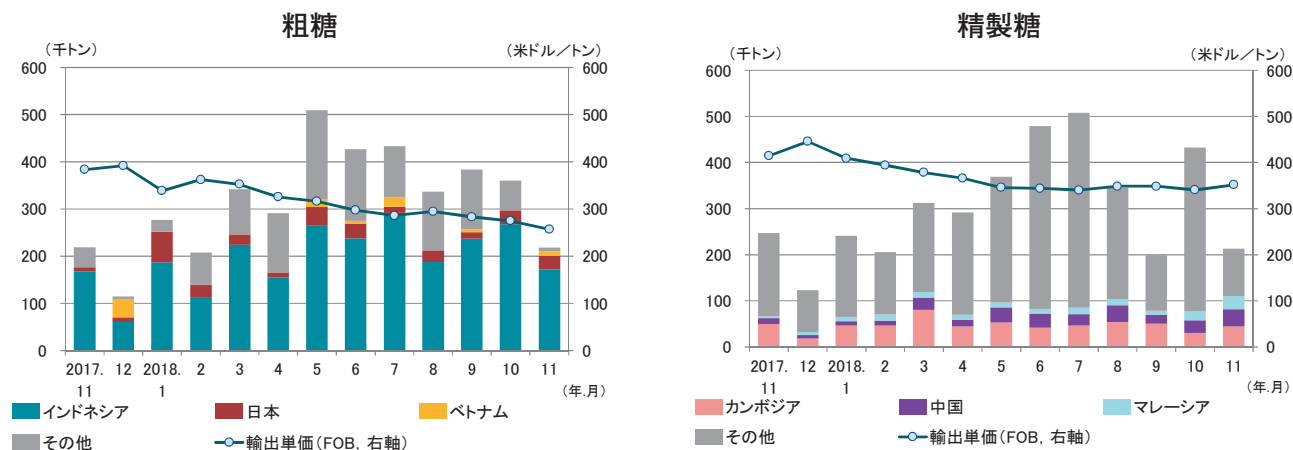
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (12月予測)	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,776	1,792	1,792	0.9
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	125,000	125,000	▲ 7.4
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,586	14,385	▲ 7.7
	輸入量	1	0	6	2	▲ 65.0
	消費量	3,272	3,283	3,343	3,132	▲ 6.3
	輸出量	7,932	7,393	10,077	13,050	29.5
	期末在庫量	3,970	3,951	6,123	4,328	▲ 29.3
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	26.7	26.7

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

### （参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 南アフリカ

### 2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：28万ha（前年度比1.8%増）

生産量：1928万トン（同10.9%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：232万トン（同7.6%増）

輸出量：83万トン（同3.6%増）

### 2018/19年度、砂糖生産量はかなり増加、輸出量はやや増加の見通し

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、28万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかに増加が見込まれ、生産量は1928万トン（同10.9%増）とかなりの増加が見込まれている（表8）。

12月に一部地域で非常に激しい豪雨が発生したが、その前に収穫作業がある程度進んでいたことから、豪雨の影響は少ないと見られ、砂糖生産量は前回予測とほぼ同様に、232万トン（同7.6%増）とかなり増加する見込みである。輸出量については、83万トン（同3.6%増）とやや増加すると見込まれている。

### 砂糖税の税収、当初の予想を大きく上回る見通し

南アフリカ財務省が10月30日に発表した財務報告によると、2018年4月に導入された糖類を含む飲料に対する課税（Health promotion levy（健康増進税））の税収は9月末時点で12億8000万ランド（117億2480万円）となった。これにより、年間の税収見込み額は同省が当初見込んでいた16億8000万ランド（153億8880万円）を大きく上回る可能性があるとした。

健康増進税は、生活習慣病の予防や食習慣の改善を目的に導入され、100ミリリットル当たり4グラム以上の糖類を含む飲料に対し、糖類1グラム当たり2.1セント（0.2円）を課税する仕組みである。

同省は、想定以上に税収が伸びた要因として「飲料メーカーにおける糖類削減の取り組みが不十分であり、また、消費者も糖類を含む飲料の購入を控える動きが見られない」と分析する。

これに対し、南アフリカの飲料業界の団体は「現時点で課税の影響を判断するのは時期尚早だ」との見方を示し、今後、課税が飲料消費に与える影響を独自に調査していくとした。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	245	250	275	280	1.8	
サトウキビ生産量	14,861	15,075	17,388	19,283	10.9	
砂糖	生産量	1,772	1,712	2,158	2,322	7.6
	輸入量	631	962	835	607	▲ 27.3
	消費量	2,353	2,274	2,304	2,097	▲ 9.0
	輸出量	292	225	801	830	3.6
	期末在庫量	349	524	412	413	0.4
	期末在庫率	13.2	21.0	13.3	14.1	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。